

## 東日本大震災後の住居形態が $\gamma$ -GTP に与える影響

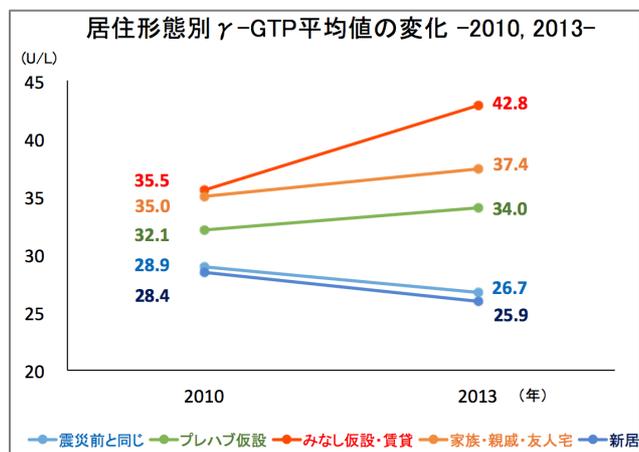
Association between housing type and  $\gamma$ -GTP increase after the Great East Japan Earthquake

2017年 Social Science & Medicine 発表

### みなし仮設・賃貸住宅に転居した被災者は $\gamma$ -GTP 上昇リスクが高い

大規模自然災害後は、一般的に被災者の飲酒量が増加することが知られています。その要因の一つとして、家屋損壊などによる災害後の転居が報告されています。甚大な津波被害をもたらした東日本大震災では、被災者は従来のプレハブ型仮設住宅に加え、みなし仮設や親戚宅など様々な住居での生活を余儀なくされました。しかし、災害後の住居形態と飲酒に伴う健康影響との関連は明らかになっていませんでした。

本研究は、東日本大震災後の被災者の住居形態と $\gamma$ -GTPとの関連を前向き研究により検証したものであり、特に「みなし仮設・賃貸住宅」に転居した者で $\gamma$ -GTP 上昇リスクが高いことが明らかとなりました(図)。



### 研究のデータについて

本研究は、宮城県石巻市雄勝・牡鹿・網地島地区の18歳以上の住民を対象に実施した被災者健康調査のデータを用いました。また、各自治体から震災前(2010年度)と2013年度の特健診のデータを提供していただき、両方の健診を受診した601名から $\gamma$ -GTPデータを得ました。このうち2013年の住居形態を「その他」と回答した者あるいは無回答の者を除外した569名について分析を行いました。

### 住居形態について

2013年の被災者健康調査時点での住居形態を「震災前と同じ」、「プレハブ型仮設住宅」、「家族・親戚・友人宅」、「新居」、「みなし仮設」、「その他」の中から選択していただきました。「賃貸住宅」と「みなし仮設」は住居形態が同じであるため同一カテゴリーとして、「その他」を除く、「震災前と同じ」、「プレハブ型仮設住宅」、「みなし仮設・賃貸住宅」「家族・親戚・友人宅」、「新居」の5つのカテゴリーを用いて解析しました。

### 他のリスク要因の影響について

本研究では、震災後の住居形態と $\gamma$ -GTPに関連する要因の影響を考慮して結果を算出しています。性別、年齢、BMI、家屋損壊、同居人数、喫煙、肝疾患・脳梗塞・心筋梗塞・糖尿病の有無、精神的苦痛、ソーシャルネットワーク、2010年度 $\gamma$ -GTPといった要因について、偏りが生じないように統計学的な処理を行いました。

### 研究の特徴と限界について

本研究は、東日本大震災後の多様な住居形態と飲酒の客観的指標として知られている $\gamma$ -GTPとの関連について検討した初めての研究です。ただし、この研究ではメタボリックシンドロームや向精神薬・抗てんかん薬の使用など、 $\gamma$ -GTP 上昇の要因を全て排除しきれていない等の限界もあります